ゼミ合宿に関し

今回は、3 年次演習の皆さん、4 年次演習の皆さんに松尾ゼミにおける合宿の経緯、そして、松尾が合宿をどのように捉えてきたか、捉えているかをお伝えいたします。もちろん、それは、皆さんの自由な考えを縛るものではありませんが、何かの参考になればと思います。

わたしは 2009 年の 4 月に東女に入りました。今の 4 年生は 5 期生で 3 年生は 6 期生です。どの学年もわたしにとっては思い出深い、大切な学年です。3 期生が 3 年生のとき 2011 年度の 10 月 8 日、9 日、初めて合宿を行いました。その経緯を説明します。わたくしは群馬県太田市でブラジル人の子どものためのポルトガル語教室に 2009 年 10 月から関わっています。その教室は毎週土曜日にブラジル人支援者がボランティアで開いているものです。わたしや東女の学生数名が月に一度ほど通っています。この活動とゼミとはまったく別のものなのですが、ゼミでは『クラスメイトは外国人』も読みますし是非とも一度、外国にルーツを持つ子どもたちに出会いコミュニケーションを取ってほしいとはいつも思っています。そんなことを 3 期生とも話していたところ、じゃあ、ゼミ単位でその活動に参加して、そのまま夜は太田に泊まって楽しく親睦を深めましょう、ということになりました。ゼミ生のほとんどが参加し、太田の築何十年かわからないような旅館に宿泊しました。この合宿を計画しているとき、学生とメールでやり取りした記録が見つかりました。抜粋します。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
あくまでも目的は、母語保持教室（ポルトガル語教室）の訪問と活動への参加であって、訪問が飲み会の前座であってはならないと思います。もちろん、楽しみ爆発！でいいと思いますが、それは昼間の活動の充実があってこそだよね。この点は、もちろんゼミ生も理解していると思います。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
現実的には夜も爆発したわけですが、昼も夜も充実した合宿となりました。

そして、4 期生を迎えた 2012 年度、できれば、3 年生、4 年生、合宿を合同でできないかと考えました。それを説明します。どの学年（期）も、それぞれに個性があり、一生懸命にゼミをいいものにしようとしてくれました。それは今もそうだと思います。ところが、1 期生、2 期生はそれぞれのゼミが 2 年間で得たものを下の学年にバトンで渡していくという機会がありませんでした。つまり、その学年が卒業したらそこには何も残らなかったのです。もちろん、卒業生一人ひとりの胸には残るものが多かったと思いますが、学びや思いを後輩にバトンを渡していくことで、ゼミの歴史が生まれていくと思いますし、ゼミが成長し、それは結果として、後輩にとって大きな財産になっていくと考えています。このあたりの考えは押し付けません。ただ、わたしは、各学年の個性は違っても、松尾ゼミだからこそ引き継がれていくものってあるんじゃないのか、そう考えているのです。

結果として、2012 年度、2013 年度と 3 年生、4 年制の合同合宿を行いました。2 年とも会場は八王子セミナーハウスでした。これは一つには、2012 年度までは東京女子大学は八王子セミナーハウスの会員校だったので、安く利用することができたという理由もあります。その他には、途中参加、逆に途中で別の所用に向かわなければならない学生がいたので首都圏で実施した方が便利であろうとの判断がありました。ただ、最初から八王子セミナーハウスにしよう！となったわけではなく学生も松尾も他の会場はないか探しました。結果的に比較の問題で八王子セミナーハウスになったわけです。ですから、松尾自身は八王子セミナーハウスにこだわってはいません。ただ、事情がわかっている安心感といったところでしょうか。

内容として、「ゼミ紹介ビデオの撮影」がかなり意識されているように思いますが、それが主目的ではまったくありません。このビデオは皆さんが 2 年生のとき 10 月にあったゼミ説明会で観てもらうビデオです。2012 年度も 2013 年度もゼミ生が作成してくれました。もちろん、今年も作ってくれたらうれしいなとは思

うのですが、これが合宿の目的ではありません。この点は確認しておきます。また、合宿が就活に役に立ったとの声もよく聞きます。確かにそういう要素があったとすればいいことでしょうが、それも合宿の主目的ではありませんし、プログラム化するというよりは、夜の懇親の場で自由に語ってもらったらいいのだろうと思います。もちろん、ゼミでの学び、卒論を就活とどのように両立していくのか、という流れであればプログラム化の可能性もあると思います。それとお伝えしておきたいのは、ゼミ生の 3 分の 2 以上が参加する場合、引率教員が大学に申請すれば、通常、ゼミ合宿は大学行事として認定されます。認定されることで、合宿中（行き帰りの行程を含む）に万が一の事故があっても学生が入っている保険が適用されます。この場合、夜の懇親はもちろん自由にしていいのですが、昼の時間は何らかの学びがあることが想定されています。

これまで 2 回、合同合宿をしていきましたが、実施にあたり、3 年生と 4 年生のコミュニケーションが何の問題もなかったということはおそらくはなかったと思います。合同食事会（飲み会）やら期末の合同発表会で顔を合わせる機会があるとはいえ、日常的にそれほどコミュニケーションがあるわけではありません。また、そもそも合宿の話し合いは、前期に行うわけで、この時期は、3 年生は 4 年生とのコミュニケーションの前に、同じ学年のゼミ生同士の中で少しずつ知り合い、分かち合っている途上です。そういう意味で、合意の形成はそれなりにむずかしいのではないかと思います。わたしはだからこそ、3 年生と 4 年生が学年の壁を超えて、率直に話し合っていってほしいと思います。それもまた貴重な学びの機会ではないでしょうか。

現在の 3 年生は、就活のスケジュールが大幅に変わる可能性があり、来年度、夏季休暇期間に合宿が行えるかどうかわからないという状況のようですね。この点、本当に大変だなと思います。ただ、今回の合宿を考える上では、あまり不確定な情報に影響されすぎることなく判断していった方がいいのではないかと思います。来年度に関しては、そのときの状況によって、また対処ができるのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

私事で恐縮ですが、現在、9 月 17 日、18 日が候補日となっているようですが、18 日の 13 時までに長野県松本市（松本駅）に着かなければなりません。長野でお世話になっている方（多文化共生関係の活動家）に講演を依頼されたためです。断ることはどうしてもできませんでした。わたしはこの講演に間に合う範囲のところしか行くことができません（参考までに言えば、朝 10 時新宿発の特急に乗れば間に合うイメージです）。話をややこしくしてしまい、申し訳ございません。

以上、わたしの思いやこれまでのゼミ合宿の経緯を書きました。実は現在の 4 年生にも今回述べた合宿の経緯やわたしの思いをしっかり伝えたことはありませんでした。それが皆さんの間にいささかの混乱をもたらしてしまったとすればそれはわたしの責任かと思います。この点、本当にお詫び申し上げます。すみませんでした。

あとは、率直な話し合いを重ねることで合意形成をしていったほしいと思います。ラインなどの SNS は確かに便利であるとは思うのですが、折々、直接対面して話し合っていったらどうでしょうか。

合宿係の皆さん、ゼミ長、そして、すべてのゼミ生に深く感謝を申し上げたいです。皆さんなら必ず納得のいく合意形成ができると信じています。最後まで読んでくれてありがとう。

松尾慎